



Atsushi Mekaru

銘苺 淳の

HAPPY HANDBALL

vol.5

PROFILE

1985年4月3日生まれ、26才。沖縄県浦添市出身。港川中で野球から転向してハンドボールをスタート。那覇西高一筑波大を経てトヨタ車体に進み、時代を変えるセンターとしての期待を集めて躍動中。ひたむきな取り組み、明るく快活な性格で、ワールドクラスのコミュニケーション能力を誇る『ハンドボール界の松岡修造』。連日更新しているブログ「おにあくま」(<http://meka-atsu.jugem.jp/>)も好評だ。

おごらず、にくまず、あせらず、くさらず、まけるな!!!

『今こそチームワークを発揮する時』

大震災の影響

まずもって、東日本大震災にて被災されたみなさんに心よりお見舞い申し上げます。未曾有の大震災が起き、我々の想像を絶する地震、津波、二次災害が起き、被災地のみなさんは状況が一変し、親族、知人が被災された方たちは、いてもたってもいられない状況だったことと存じます。

被災地には私も大変お世話になった方が数多くいらっしゃり、心配で心配で電話も通じず不安でいっぱいでした。学生時代をすごした茨城県も地震の影響でライフラインがストップし、日常生活が困難になったと聞きました。スポーツにおける全国的なイベントも中止になり、3月に予定されていたプレーオフ、高校選抜大会、春の全国中学生大会が中止となりました。大震災の影響はスポーツ界にも大きな影響を及ぼしました。

被災地はもちろん、日本中が大変な状況ですが、一方で地震の影響がなかった地域はなに不自由な生活です。電気は煌々としていますし、蛇口をひねれば水が出ます。スーパーには商品が品薄状態ですが、お弁当もありますし、まったく食料がないわけではありません。テレビ番組で震災を扱う時間も減り、関心が薄らいでいく生活の中で、被災地のことを考えるのは難しいです。

我々にできること

こういう状況では無関心が一番好ましくないとします。対岸の火事として見るのでは、いつ何時同じような災害にあ

った時に学習された行動をとることができません。だからと言って多額の募金をしなければということもありません。できる範囲でできることをしていけばいいと思います。

私の中のテーマに「Passion Mission Action Creation」というものがあります。知人の紹介から得たのですが、「与えられた使命に対し、情熱を持って具体的に行動し、その中で新しいものを創造し、楽しむ少年の心を忘れない」と自分なりに勝手に解釈しています。

直接的な被害がなかった私は生活に困難がありません。被災地と違って体育館の中でハンドボールすることができています。そんな中で情性になってちゃんぼらんな生活をするのではなく、自分の持ち場で、情熱的に、具体的に全力で行動することが、まずは一番身近でできることだと思えます。

ハンドボールへの携わり方はいろいろです。選手であったり、コーチ、レフェリー、観客、運営などたくさんあります。そのすべてがみんなハンドボールをする仲間です。同じように今回の大震災の支援の携わり方も、現地スタッフ、義援金寄付、ネットワーク復旧、節電節水、元気を出す、祈りなどさまざま、それもみんな支援復興を願う仲間です。自分ができる活動の中で、可能な限り被災地のみなさんが元気になるような取り組みをしていければ良いと思います。

ハンドボーラーはバカにできない

被災地の小学生の中にはハンドボールがしたいという子がいるそうです。やり

たくてもできない状況にあるハンドボーラーはたくさんいます。そんな子どもたちや、ハンドボールの復興のためになにかできないかと考え、すでに日本協会や日本リーグのチーム、選手は動き出しています。

私の場合は知りうる限りの指導者の先生に連絡をとり、講習会を開いてそこで義援金を集めることに協力してくれないでしょうかとお願いしました。するとすぐに連絡があり、予定が入っているにもかかわらずチャリティ講習会にしてくださいとの返答をいただきました。

1人が1万円を出すのも、100人が100円を出すのも同じ1万円ですが、物質的、精神的な重みが違います。なんとかしたいけどどうしたらいいかわからないという人の手を少し引っ張ってあげたり、中高生に少しの時間だけでも考える時間を作ってあげたりすることで、多くの人を巻き込んで、多くの人々の気持ちが入った、多くの浄財が集まりました。ハンドボーラーの熱い気持ちも思いも再認識することができ、私はハンドボーラーがまた好きになった気がします。そして協力してくださったハンドボーラーに敬服しています。

ハンドボールからの贈り物

我々はハンドボールをしています。ハンドボールは素晴らしいスポーツです。毎日のトレーニングで、想いを託し、心をこめてパスをつなげていくプロセスの中で、仲間を思いやったり、気づかたりすることを学んでいます。自分で目標を定めて、自分で考えて行動、努力する方法論を知っています。チームが1つになって目標達成のために力を合わせることを知っています。目標が達成された時に、仲間の笑顔を見て、自分もうれしくなるあの瞬間を知っています。

まだまだハンドボールから与えられたものはこんなものじゃないはず。今こそチームワークを発揮する時です。被災された地域にはたくさんのハンドボール仲間がいます。仲間を助けたり、応援したり、気づかたり、自分でできることから始めてみませんか。日本全国のハンドボール選手、愛好者、関係者がチームとなって「表現する」時であり、チャンスでもあります。

私の勝手な願いですが、ハンドボールと笑顔はいつもいっしょがいいです。被災地で心体充実のもと、楽しくハンドボールができる環境が整い、そこには満開の笑顔があふれる日を心待ちにしながら、できることを継続していきたいと思っています。

「情熱的に生きる」——またハンドボールから教えてもらいました。